

新型コロナウイルス感染症の定期予防接種についての説明書

＜新型コロナウイルス感染症とは＞

新型コロナウイルスの感染は、エアロゾル感染、飛沫感染、接触感染が主な感染経路と考えられています。感染して多くの方が2～3日程度、長くとも7日程度で発熱、喉の痛み、頭痛、倦怠感（だるさ）などの症状が出始めます。年齢が上がるごとに重症化するリスクが高まるため、高齢者と基礎疾患のある方は注意が必要です。

＜ワクチンの効果と副反応＞

ワクチン接種を受けると、感染した場合の入院や死亡などの重症化を予防する効果が認められたと報告されています。主な副反応は、接種部位の痛み、倦怠感、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱などがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

接種後に胸の痛みや動悸、息切れ、むくみ、手足の力が入りにくい、しびれなどの症状が現れた場合は速やかに医療機関を受診してください。

＜予防接種を受けることができない人＞

- 1) 明らかに発熱している人（通常は37.5℃を超える場合）
- 2) 重い急性疾患にかかっている人
- 3) ワクチンに含まれる成分によって、接種後30分以内にひどいアレルギー反応（アナフィラキシーなど）を起こしたことがある人
- 4) 医師が予防接種を行うことが不適当な状態にあると判断した人

＜次の方は接種前に医師にご相談ください＞

- 1) 抗凝固療法（血液をサラサラにする薬の投与）を受けている人、血小板減少症又は凝固障害（出血時に血が止まりにくい）のある人
- 2) 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある人、もしくは近親者に先天性免疫不全者がいる人
- 3) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患および血液疾患などの基礎疾患がある人
- 4) 過去に予防接種を受けた時、2日以内に発熱、全身性の発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状のみられた人、またそのおそれがある人
- 5) 過去にけいれん（ひきつけ）の既往歴のある人

＜接種後は以下の点に注意してください＞

- 1) 接種後30分間は、急な副反応（冷汗が出る、めまい、顔面蒼白、手足が冷たくなる、意識の消失）、アナフィラキシー（全身のかゆみ、じんましん、喉のかゆみ、ふらつき、動悸）が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしてください。
- 2) 接種直後または接種後に、血管迷走神経反射として立ちくらみや失神を起こすことがあります。転倒に注意してください。
- 3) 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめてください。
- 4) 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、接種後は接種部位を清潔に保ち、接種当日は激しい運動や大量の飲酒は避けてください。
- 5) 接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 6) 医療機関で本日の予防接種の記録を高齢者予防接種手帳や健康手帳に記入してもらい、他の医療機関を受診した時や、他の予防接種を受ける時に提示できるように保管しておきましょう。

＜予防接種健康被害救済制度について＞

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。

新型コロナウイルス感染症定期予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金の給付など）が受けられます。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。